

「研修会等名称」

2010年度第16回FDフォーラム

組織的FDの取り組みーFD義務化から現在（いま）ー

場所：京都外国語大学

期間：2011年3月5日(土)・6日(日)

1. 研修の内容

初日は「組織的FDの取り組みーFD義務化から現在（いま）ー」というテーマでのシンポジウムが行なわれました。登壇されたのはコーディネーターの高橋伸一先生（京都精華大学共通教育センター長人文学部教授）、報告者のFD実践（教員研修）の平山弓月先生（京都外国語大学外国語学部教授）、FD実践（授業改善）の木野茂先生（立命館大学共通教育推進機構教授）、FD戦略という視点の池田輝政先生（名城大学副学長・理事）、アセスメントの効用の山田剛史先生（島根大学教育開発センター副センター長）でした。それぞれ過去の組織的FDの取り組みについてご自分の所属される大学でのご報告をされました。

翌日は第八分科会の「コーオペ教育（インターンシップ）の理論と実践経験」に出させていただきました。コーディネーターは河村能夫先生（龍谷大学経済学部教授）、報告者は加藤敏明先生（立命館大学共通教育推進機構教授・キャリア教育センター長）、石川武氏（三共精機株式会社取締役社長）、河村律子先生（立命館大学国際関係学部准教授）でした。フォーラム資料集の概要には「1970年代経済のグローバル化とともに脱工業化社会（Postindustrial Society）へと大きな歴史的転換を経験したアメリカ合衆国において、それまで例外的で特異な教育であったコーオペきょういく（Cooperative Education）が急速に普及し、高等教育制度において重要な位置を獲得するようになった。これは教育のあり方が社会の変化と対応することの必要性を示唆している。」（8-1）と記してありました。このコーオペ教育の具体的な展開をおもに立命館大学の試みを中心にして学ばせていただきました。

2. 研修の成果

シンポジウムはFD義務化三年経った今の全体的な状況を知ることが出来ました。目新しいことが始まっているわけではないのですが、FD活動がそれぞれの大学の個性に即して組織的に展開されていることを実感させられました。印象深かったのは京都外国語大学ではFD義務化以前より大学の規模がさほど大きくないために全教員のFD合宿を実施されていることでした。また立命館大学では学生がFDに積極的に参加していることでした。このため授業評価の自由記述は来年度より廃止されるそうです。学生が授業の中で教員に考えを述べ、それを教員が授業の改善に吸い上げるのだそうです。これらは従来のFD活動の延長線上にあります。

分科会ではインターンシップは単なる就職前の社会研修ではなく、コーオプ教育の一環として位置づけなければならないことを教えられました。関西では諸大学がまとまって組織的なインターンシップを実施しています。関西のコンソーシウムに所属する諸大学では各大学が窓口になって企業に研修を依頼するのではなく、全体でまとまって企業に研修を依頼する体制を整えています。研修期間は三ヶ月から半年の長期に亘ります。

何よりも驚いたことはインターンシップに参加した学生は外部から研修先の企業を観察するのではなく、無給ではあるけれども企業の課題に取り組む役割を担わされていることです。実際理系の学生が参加した場合は彼らが新製品を開発する事例も出てきているそうです。インターンシップを個人的な体験的社会研修に終わらせるのではなく、参加者が企業の内部に位置して企業活動に携わることが出来るように大学が連合して組織作りをするというのはまったく新しい発見でした。

そしてこれまでFD活動と聞けば、授業評価と教授法の改善を思い浮かべましたが、FDは本来それにとどまるのではなく、Faculty すなわち教授職集団の能力、Development すなわち開発であることを思い知らされました。それはHowだけではなくWhatの面まで広げた活動の展開であったわけです。

新たな授業内容を開発すること、この面にも重点を置くことが現下の動向の一つであることを認識させられた次第でございます。

3. 授業への研修成果の反映状況

昨年八月にフィールドワークで経済学部の学生を深圳のテクノセンターに引率させていただきました。そこでは日本の大学からのインターンシップの学生を受け入れていることを知りました。インターンシップの意義について深く知らされました。これにより日本企業の海外進出の実態をつぶさに学ぶことが出来るからです。

しかし今回学生個人の自主性主体性に負うのではなく、大学が組織的にこのようなインターンシップへの参加を後押しする必要があることを痛感させられました。インターンシップをコーオプ教育の観点からカリキュラムの中に組み込む方向を強く示唆されました。それによりフィールドワークが海外インターンシップと連結され単発の試みに終わることなく、より充実したものになるのではないかと思います。

二日にわたり中味の濃い充実したものでした。貴重な経験をさせていただきましたことを心より感謝し、今後活かして行きたいと存じます。有り難うございました。

学部長	FD委員長	FD委員会	企画・広報課長	係